

平成30年度第4回阪南市子ども読書活動推進会議

| | |
|--------|----------------------------|
| 開催日時 | 平成31年2月28日（木） 午後2時 |
| 閉会日時 | 平成31年2月28日（木） 午後3時15分 |
| 会議場所 | 阪南市立図書館 視聴覚室 |
| 出席委員 | 委員長 森本 典子（阪南市子ども文庫連絡会） |
| | 副委員長 石原 慎（生涯学習部学校教育課） |
| | 委員 西野 豊子（市民公募） |
| | 委員 谷本 美由貴（阪南市みんなの図書館を考える会） |
| | 委員 福井 貴子（泉鳥取高等学校） |
| | 委員 嶋田 由香理（尾崎小学校） |
| | 委員 下林 奈央（飯の峯中学校） |
| | 委員 油谷 優公（こども未来部こども家庭課） |
| | 委員 井上 真理（生涯学習部生涯学習推進室） |
| | 委員 加藤 靖子（生涯学習部図書館） |
| 欠席委員 | 委員 橋本 一郎（市民公募） |
| | 委員 大塚 尚子（はんなん子育てネットワーク） |
| | 委員 東堂 美幸（子どもNPOはらっぱ） |
| | 委員 佐藤 萌香（阪南市社会福祉協議会） |
| | 委員 宮元 早苗（まい幼稚園） |
| | 委員 南 智珠子（尾崎保育所） |
| | 委員 宍道 恵子（子育て総合支援センター） |
| | 委員 藪内 かおり（健康部健康増進課） |
| 事務局出席者 | 図書館主幹 森下 喜代子 |
| | 図書館総括主事 中山 直子 |

挨拶

委員長 事務局

案件1

第三次阪南市子ども読書活動推進計画（素案）の修正等について

委員長

1月7日～31日、委員の皆様にもお配りしている三次計画の素案について、市内各施設と市ホームページでパブリック・コメントを実施した結果、1人の方より6件の意見があった。その要旨を別紙にまとめている。事務局から説明をお願いします。

事務局

6件の意見をそれぞれ数字をふってまとめている。順番に読ませていただく。
1番：保健センター
担当委員は本日欠席だが、事前に打ち合わせて了承していただいている。

・保健センターの絵本棚は使いにくいというえに暗く、絵本は古くて手入れされていないように感じ、子どもに読みきかせするのに抵抗がある。
・どのベンチからも本を取りやすいよう、本棚を近づけてはどうか。
・チラシ類が整理されておらず、探しにくい。
・手に取りやすいように工夫するか、予算をつけて改善してほしい。
・スマートフォンやタブレットを見ていることを本離れと決めつけるのはいかなものか。

計画P5 網掛けが修正部分、斜体が加筆部分である。またP15、第三次計画で取り組むことを一つ追加した。この件について意見などはあるか。
とくになければ、この通りで進める。

2番：小中学校・教育委員会

・探求型調べ学習についての記載が少ない。図書館の資料費を増やし、調べ学習の資料を更新するなど、もっと力を入れるべきでは。
・学校図書館の研修の情報を共有している、また研修を行っているがあるが、スキルアップにつながっているのか。
・市立図書館の所蔵する児童書が少なく、学校の授業に必要な資料の提供ができていないのではないか。

計画P8～ 網掛けが修正部分、加筆修正は見え消しと斜体で示している。別紙実施結果に⑥が抜けているので加筆していただきたい。

副委員長

学校図書館専任司書の研修については、パブリックコメントでの指摘の通り予算的には厳しいものがあるが、研修を受けた司書は他の司書にも広めたり、市で講師を呼んで研修をするなど、内容を充実させていきたい。

事務局

A委員、何かないか。書き過ぎなどあれば、ご指摘いただきたい。

A委員

特になし

事務局

3番：学校図書館専任司書

・小中学校の学校図書館司書は一校一名配置とし、図書費は削減すべきではない。

計画P8 ご意見に対して、“資料費を増やす”というには厳しい状況となっているので、「配置できていないのが現状ですが、一校一名配置と資料購入費の充実の重要性は認識しています」としている。意見があればお願いします。

B委員

少し前後するが、P16 小中学校① 研修の情報交換という表記が成果といえるのか、修正はいらないか。

事務局

研修で得た知識の情報交換のことであり、研修の有無の情報ととらえられないよう工夫した。知識が広められることは成果ではないか。

B委員

そういうことならよい。

事務局

4番 市立図書館ブックスタート事業

・ブックスタート事業で配布している絵本は定番のものですでに持っており、選びようがないので、絵本のラインナップをもっと増やしてほしい。

計画P10～

絵本を配ることが目的ではなく、きっかけと考えている。タイトルを増やすことと効果をあげることは別ではないか。選べなければ、予備のタイトルもある。

C委員、何か意見はないか。

C委員

ブックスタートスタッフとして長年携わっていて、「全タイトルを持っているので、ほしい本がない」と言われたことはない。かなり色々なタイプをそろえていると思う。

D委員

ほしい本がないという意味ではないか。ほしくないが選んだという意識があるのではないか。

E委員

転入者で、1人目の時は絵本をもらえなかったのが今回ではもらえてうれしいと言われたことがある。私の娘が住んでいる自治体では福祉協議会がブックスタートを担当していて、プレゼンターがボランティアで、絵本についてはあまり知識がないようだった。以前は2人目となると、話はろくに聞かずに帰る人も多かったが、最近では育児についての悩み等を話す人もいる。出生数の減少の影響もあるかもしれないが、色々な話ができる機会になった。「自分の親はネグレクト、姉に育てられた」など驚かされる話も聞く。

C委員

自分の孫（他市）の時は、絵本の配布はなく、説明だけだった。2人目の時は本はもらったが、説明がなかった。人と本、実践や説明が必要。阪南市はスタッフに、事前の研修があるからよい。

事務局

こういつた息をぐにさる力なりで、たくさん本をお持ちなりのこと思ひ。他に息目かたければ次に進めず

5番：小中学校・教育委員会

・三次計画における小中学校での取組は、すでに行っている情報共有と「えほんのひろば」だけなのか。

計画P16 新たに始めるものについて記載が前提で、継続についてはあげていない。

意見をくださった方は、天候不良でおはなし会が中止になったとき、試験的におはなしのへやで行ったえほんのひろばを見て、またするのかという意見だったのかもしれない。1年に1回各校でという計画はまだ実践できていないので、これからそれをめざすという意味での表記だった。

中学校1回については、3月にF委員の協力を得て、飯の峯中学校で実施する予定である。何か意見があればうかがいたい。

副委員長

先日、30年度最後の学校図書館専任司書研修を行ったが、各校で効果的だったイベント・資料等を持ち寄った。他校のいいところを取り入れながらまた新たに取組んでいけるのではないかと、という手応えがあった。「えほんのひろば」についても、実践校を見学に行き、刺激を受けた学校は取り入れてくれるのではないかと。

F委員

今年度、自校で「えほんのひろば」を懇談期間中に実施する。場所は多目的スペースで、施設はできないが、通路ともなっているため、教室へ向かう保護者にも見てもらえる。併せて体育館に生徒製作のポスターの掲示も予定している。体育館を使用する地域の人々の目にも触れる。

事務局

6番：全体

・インターネットやスマートフォンのせいで本離れが進んでいるように書かれているが、今後はそうした媒体を上手に使える環境を整えてほしい。
・各機関・施設の取組みに具体性が乏しく、写真もないため本当に良いのか判断できない。

計画では詳細に触れていないが、HP等で公開している。インターネットやスマホを否定しているわけではなく、うまく取り入れていきたい。何か意見はあるか。

特に意見がなければ、以上のとおり加筆修正して、計画（案）としてまとめる。

B委員 P 5 公民館② ” の ” と P6 支援センター⑤ “ 供 ” が 1 文字左に寄っているので修正をお願いします。

館長 表紙の計画名のしたに「本の楽しさを共有する」を入れてはどうか。

各委員 異議なし

D委員 パブリック・コメントも修正可能か。“子どもたち”の表現が⑤で”こどもたち”になっている。目次、市立図書館を半角左に寄せる。

委員長 P 8, 最下段、～各中学校～を改ページした方がよい。

事務局 修正する。その他修正があれば、今日明日中にお問い合わせ。

案件2 今後のスケジュールについて

委員長 事務局より説明をお願いします

事務局 いただいた意見に基づき、事務局で修正案を作成する。それを以て市長決裁を得る。と同時に市のホームページで、パブリック・コメントでいただいたご意見に対する市の考え方、お手元にある資料と基本的には同じものを公表する。また、教育委員会での議決を経て全議員へ報告する。最終的にはカラーの表紙とする。以上の全てを経て、4月から計画がスタートする。質問はないか。

(質問なし)

案件3 新委員の委嘱について

事務局 現在の委員の皆様の任期は、3月末までである。4月以降に改めて委嘱する。それぞれで異動等あると思うので、新年度早々各施設・機関に新委員候補者について推薦を照会する。市民公募委員は広報で募集し、選考する。いずれも6月1日付の委嘱を予定している。来年度の第1回の会議で委嘱状をお渡しし、新しい委員長・副委員長を選出していただく。

質問はないか。

委員長 各委員からなにか報告はないか。

G委員 3月26日(火)10時からビブリオバトルを実施する。尾崎小学校5年生、東鳥取小学校6年生、貝掛中学校1年生、阪南市民、和歌山大学生、和歌山大学院生、泉鳥取高校生3名、職員1名が出場予定。学校図書館の研究会にもおろしているの、参加があるかもしれない。大阪体育大学の中学生が来年度からカリキュラムにビブリオバトルを取り入れるらしい。その要請もあり今回の実施となった。以前はお願いして来てもらったが、今回は様子が少し違うので、自分も楽しみにしている。見学も自由。参加希望の方は学校に問い合わせしてほしい。

事務局 例年2回目の推進会議で、その年度の見込みを含めた実践報告をいただいているが、本年は二次計画の最終年度ということもあり、来年度の第1回目の会議で平成30年度の報告を行っていただきたい。新しい委員の方はわからないと思うので、引継ぎをよろしく願います。

委員長 本日をもって、第三次阪南市子ども読書活動推進計画の素案がまとまった。委員のみなさまの協力に感謝する。また、文書の作成に関しては、事務局の中山さんに感謝する。テーマを掲げたことですっきりした内容になった。学校図書館専任司書は1校1名配置が増えてよかった。学校そのものに子どもの読書活動に対する理解が深まった。他機関との連携も深まっているように感じる。今後5年間、阪南市の子どもたちが1人でも本好きになるよう、期待している。

館長

ようやくあと一歩というところまで計画ができあがった。第一次計画を作った十年前には聞いたことのなかったラインやツイッター、フェイスブックなどが当たり前の世の中になった。本に手を伸ばす機会が減っていると感じる。だからこそ計画を作って意識的に本の楽しさを共有する、本を子どもたちに手渡していくことがなければ、ますます活字は世の中の隅っこに追いやられてしまう。大学生の娘が長い文章を読むのは、頭の違うところを使う気がすると言っていた。私が友達とやり取りするラインの文章をみて、長いと驚いていた。娘のラインは1行、2行。長い文章を読んでいないと長い文章が書けない。それは生きていくためのスキルのひとつ。本の楽しさを共有するところからそういったスキルを身につけてほしい。この第三次計画をもって、5年間すすんでいきたい。委員の任期は5年だが、再任は妨げないので、またよろしく願います。

事務局

以上をもって、会議を終了する。